

4 か国高校生の勉強観と人生観を読み解く

青少年教育研究センター長・千葉敬愛短期大学学長

明石 要一

1 日本の高校生の勉強観の特徴

1) 日本の勉強の仕方は——試験前にまとめてするだけ

勉強は高校生にとって重要な生活の一つである。ずばり「勉強は好きか」と尋ねると、日本、米国、韓国は好きな者が3割強であるが、なぜか中国は75.9%と3分の2の者が好きと答える。また、中国は宿題の勉強を「3時間以上」する者が28%とトップであり、宿題以外の勉強でも「3時間以上」が16.0%となっている。

一方、日本の高校生は勉強が好きでない(69.3%)、宿題をしない(11.2%)が一番多い。そして、宿題以外の勉強をしないが24.2%と4か国の中で一番多い。

こうした勉強に対する意識は、勉強の仕方にも反映する。勉強の仕方を12項目用意した。日本の高校生が他国と比べて特徴的なのが、次の項目である。

「試験の前にまとめて勉強する」

他の項目も他国に比べて多くが極端に低い。勉強とは「試験前に集中してやればよい」と思っているようだ。

アメリカが高いのは、次のとおりである。

「できるだけ暗記しようとする」

「自分で整理しながら勉強する」

「教えられたとおりに勉強する」

「勉強したものを実際に応用してみる」

「教わったことをほかの方法でもやってみる」

「方法や過程より結果がわかればよいと思う」

中国の特徴は、次のとおりである。

「できるだけ自分で考えようとする」

「問題意識を持ち、聞いたり調べたりする」

「参考書をたくさん読む」

韓国の特徴は、次のとおりである。

「毎日こつこつと勉強する」

因子分析の結果では、「能動型」「積み上げ型」「暗記型」の中で、日本はどのタイプにも当てはまらず、学習態度が明確でない。ちなみに、米国は「能動型」と「暗記型」、中国は「能動型」、韓国は「積み上げ型」である。

日本の高校生たちは「ながら勉強」が多いと指摘されてきたが、他国と比較するとその「ながら勉強」さえも影が薄くなっている。「ながら勉強」のトップは米国である。

2 日本の授業の特徴

1) 日本の授業は——教科書に従って、その内容を覚える授業が多い

日本は中国と同じように「教科書に従って、その内容を覚える授業」が多い。従来型の受け身の授業が中心となっている。しかし、中国はそれ以外の授業の形態も多い。次の6項目はすべてトップに来る。

「問題集でたくさん練習する授業」

「生徒によく発言させる授業」

「教科書以外の本、模型、現物など、いろんな教材や教具を使って教える授業」

「タブレット、電子黒板、プレゼンテーションソフトなどを活用する授業」

「グループで課題を決め、考えたり調べたりする授業」

「学校外での見学や体験をする授業」

米国がトップに来るのは、次の項目である。

「個人で調べたり、まとめたり、発表する授業」

2) 生徒の授業中の態度——きちんとノートは取るが、たまに居眠りをする

授業中の態度は9項目用意している。その中で、日本の数値が高いのは、次の項目である。

「授業中、きちんとノートをとる」

「授業中、居眠りをする」

米国

「グループワークの時には積極的に参加する」

「授業中、勉強以外の本を読む」

「授業中、ボーッとしている」

「授業中、携帯電話やスマートフォンを見たり、メールの受送信をする」

中国

「出された宿題をきちんとする」

「授業中、先生の話をよく聞く」

韓国

特徴的な態度はみられない。敢えて指摘すれば、「授業中、先生の話をよく聞く」「グループワークの時には積極的に参加する」である。

3 勉強がわからないときの対処方法

多くの高校生にとって、勉強がすべて理解できるわけがない。肝腎なのは、理解できないときどう対処しているかである。ここではお国柄が出ている。

どの国も「友達に聞く」が多い。しかし、日本はここでも一番数値が低い。結論を言えば、対処の仕方にはっきりした特徴がみられない。解決に向けた積極的な姿勢がうかがえない。

米国

「学校の先生に聞く」

「ネットなどで調べる」

「家族に聞く」

中国

「本や参考書などで調べる」

韓国

「塾などの先生に聞く」

4 ICTの活用と学習行動

1) 情報通信技術の活用——日本が一番活用していない

今はまさにICT時代である。日本の高校生はゲームとメールを友だち同士でしている。彼らのICTのスキルとインターネットの活用は他国に比べてどうなっているのだろうか。

極めてショッキングなデータがみられる。他の3か国に比べてICTスキルが低いのである。用意した5項目のスキルでどれも4か国中一番数値が低い。

米国

「ワードなど文書ソフトを使う」

「エクセルなど表計算を使う」

「パワーポイントなどプレゼンテーションソフトを使う」

中国

「自分のブログやホームページを作成・更新する」

韓国

「簡単なプログラミングをする」

2) インターネットの学習利用——日本は利用者がやはり少ない

どの国もインターネットでニュース関連の情報は7割を超える者が検索している。そして、「インターネットでの勉強は効果的である」と答えている。しかし、他の面では日本が一番低い。気になるのは、次の項目で極端に数値が低いことである。

「インターネット上の質問サイトにわからないことを質問する」

「インターネット上にある練習問題や試験対策問題を解く」

「塾のホームページや動画サイトなどで講義や授業の動画をみる」

「学習ソフトやアプリを使って勉強する」

インターネットと学習が結びついていない。情報を検索したり、資料を調べることにとどまっているようだ。

5 将来の展望

1) 受けた教育水準の希望は、日本の高校生は四年制大学の進学に止まり、大学院志望が少ない

将来受けた教育は、日本と韓国は5割から6割が4年制大学までとなっていて一番多い。米国と中国は35%ほどにとどまっているが、四分の一が大学院修士までを希望する。しかも、博士課程まで希望する者は米国18.1%、中国15.4%である。

2) 人生目標——社会的な地位、リーダー、有名大学への志望が少ない

米国の高校生は社会的な達成目標が一番高い。次が中国、そして韓国が続く。日本は示した10項目の目標の中で8項目の数値が一番低い。ただし、「のんびりと気楽に暮らす」だけは他の国と遜色がない。

日本の高校生は、「安定した仕事に就く」「円満な家庭を築く」「のんびりと気楽に過ごす」、そして「自分の趣味を生かす暮らしをする」という安定志向が人生目標となっている。米国の高校生も日本と同じ目標を堅持するが、他にも「お金持ちになる」「リーダーになる」「社会のために役立つ生き方をする」という上昇志向の目標を掲げている。

4か国の比較調査により、日本の高校生の勉強観と人生観がくっきり浮かび上がってきた。中国を除き、日米韓三か国の高校生はあまり勉強が好きでない。これはわかる。しかし、日本の高校生は宿題も一番しないし、宿題以外の勉強もしていない。

ここで問題にしたいのは、勉強に対する姿勢の希薄さだけではない。勉強の仕方が気になる。勉強は時間をかけるだけが能ではない。学習内容をどれだけ身に付いているか、というポイント学習が大切になる。ノートを写したり、マーカーを引いたりするのはややもすれば「勉強したつもり」に陥りやすい。

日本の高校生は「試験の前にまとめて勉強する」だけである。かつて言われた「一夜漬け」型の勉強の仕方である。これでは学習内容がなかなか定着しない。試験が終われば消え去る可能性が高い。

こうした高校生が出現する背景には、彼らが日常に受けている授業の形態と授業態度が考えられる。

日本が一番多い授業形態は「教科書に従って、その内容を覚える授業」という受け身的なものが多い。「グループで課題を決め、考えたり調べたりする」や「タブレット、電子黒板、プレゼンテーションソフトなどを活用する」というアクティブな授業が少ない。

だからであろうか、高校生の授業中は「きちんとノートを取るが、たまに居眠りをする」という態度がみられる。

また、こうした受け身的な態度は「勉強がわからない」ときの対処の方法にも現れる。米国は「学校の先生に聞く」「ネットで調べる」「家族に聞く」、中国は「本や参考書で調べる」、韓国は「塾などの先生に聞く」という特徴があるが、日本ははっきりした特徴はみられない。「わ

からないままに」しておきかねないのである。

「わからないままにしておく」状態は、ネット利用にも伸びていかない。インターネットを利用して質問をしたり、ネット上の問題を解いたりもしない。

SNSやLINEの活用はするが、学習には結びつかない。と同時に、日本の高校生のICTスキルの低さが気になる。ワードやエクセル、それからパワーポイントのスキルやホームページの作成、プログラミングのスキルが他の3か国に比べて低いのである。

こうした勉強に対する構えが、彼らの人生観にも色濃く反映しているようである。将来受けたい教育は四年制大学止まりでよいと思っている。大学院志望が米国、中国に比べて少ない。それから、将来の人生目標も社会的な達成よりも今の生活を保障する内向きの安定志向を望んでいる。